

バクタプル王宮(世界遺産)(ネパール国バクタプル)

17 世紀にヤクシャ・マッラ王により建造された王宮です。その後、代々のマッラ王によって増築されてきました。かつてこの場所には 99 ものチョークがあったと言われ、ネワール彫刻や建築の傑作の見るができます。

ゴールデンゲート

旧王宮への入口として、1745 年にランジット・マッラ王によって造られた門です。一面にガルダにまたがるカーリー女神、ヴィシュヌなどのヒンズー教の神々の装飾が施され、芸術品としても高く評価されています。ゲートの前の石柱には、祈りを捧げているブパティンドラ・マッラ王の像があります。



55 窓の宮殿

1427 年にヤクシャ・マッラ王の統治期間に建造された、入口を含め 55 の窓がある 3 層の建物です。それぞれの窓には緻密な彫刻が施されており、ネワール建築の傑作であると言われています。この宮殿は 17 世紀にブパティンドラ・マッラ王によって再建されました。

55 窓の宮殿

1427 年にヤクシャ・マッラ王の統治期間に建造された、入口を含め 55 の窓がある 3 層の建物です。それぞれの窓には緻密な彫刻が施されており、ネワール建築の傑作であると言われています。この宮殿は 17 世紀にブパティンドラ・マッラ王によって再建されました。



ムル・チョーク

マッラ王朝の女神タレジューに捧げられた中庭です。この「ムル」とは「主要な」という意味で、王宮の中心的な建物であることを意味しています。南側には、タレジューを祀った小さな寺院があることから、「タレジュー・チョーク」という名称でも親しまれています。入口にはガンジス川の精を神格化した女神ガンガーと、ヤムナー川の女神ヤミーの像があります。ムル・チョークの隣には、クマリ・チョークと王の沐浴場のあるスンドリ・チョークがあります。



色々な観光サイトによる



